

RCV

Red Cross Volunteer



災害のために
平時から備える
自分を守り、周りを守る



特集
1

多様な方々によるボランティア

～関東大震災100年後の今のボランティアの形～

特集
2

多様な方々へのボランティア

～ニーズに合わせた誰一人取り残さない防災～

この情報誌は、RCV編集委員(ボランティア)の協力で作られているガー!
※委員の声は、編集後記に載っています。

多様な方々によるボランティア

～関東大震災100年後の今のボランティアの形～



2023年は関東大震災から100年の年でした。関東大震災時、日本赤十字社はすでに戦時救護のノウハウを活かして自然災害に対応するための救護班や救護資機材を整備していました。また、全国の赤十字の支部や病院に加え、活発に活動するボランティアの存在がありました。それから100年経った今日、各地域の強みやボランティアの特技を活かし、多様な方々が今後起こりうる大災害に備えた活動を行っています。その中から3県における取り組みをお伝えします！

福島県

災害に備え平時から取り組むボランティア活動

あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう赤十字奉仕団

あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう赤十字奉仕団とは？

厚生労働大臣免許「あん摩マッサージ指圧師」「はり師」「きゅう師」の保有者で組織された、視覚障がい者の方を含む特殊奉仕団。略して「あはき奉仕団」と呼ばれ、全国的に見ても大変めずらしい奉仕団です。

◎ 鍼灸マッサージで平時、緊急時を支える

平時は、東洋医学の専門的知識と医療技術を活かし、高齢者施設などでの慰問ボランティア奉仕活動や、一般県民に対する鍼灸マッサージ、つば健康法の講習指導を行っています。災害時には被災者はもちろん、被災者の対応にあたる行政職員の方へも災害支援として、鍼灸マッサージ活動を行っています。実際に台風の被害があった時には、避難所の設営支援にも取り組みました。



活動後に記念撮影！

避難所での即席施術ブース

◎ 避難所でストレスを抱えた子どもたちを施術

通常は大人を対象に施術を行っていますが、必要としているのは大人だけではないことに気付かされたことがあります。それは、令和元年の台風19号の時のこと。避難所を訪問し高齢者を施術していると、小学校低学年の子どもたちも「マッサージをして欲しい」と

言い出しました。興味本位だろうと思いつつも対応したところ、施術すると5分ほどで気持ち良さそうに眠ってしまう子が続出したのです。その様子を見て、子どもも避難所生活で心身ともに疲れてストレスを感じており、癒しを求めていることを知りました。

◆ 一歩進んだボランティア活動を目指したい ◆

日頃から専門技術の研鑽を積むほか、日赤主催の防災イベントなどにも参加して災害時に備え、災害となった場合は、その専門知識と技術を活かし被災者の方のみならず支援するボランティアの方々へも、より良い心身ケアができるよう努めています。「できる人が、できる時に、できることをする」。この考えのもと、地域奉仕団と協力して得意なところを持ち寄り、障がい者と健常者の区別なく、ともに手を取り合ったりしながら、一歩進んだ活動をしていければと思っています。



平栗委員長



台風被害による危機に隣町の奉仕団が立ち上がった

鳥取市用瀬町赤十字奉仕団 × 鳥取市佐治町赤十字奉仕団

佐治町赤十字奉仕団は高齢や障がいなどで調理が困難な方を対象に定期的にお弁当を配布していますが、令和5年8月台風7号で被害を受け、断水によりお弁当を作ることが困難になってしまいました。そんな中、隣町の用瀬町赤十字奉仕団は、佐治町で備蓄品の配布を準備中、雑談の中で佐治町の状況を聞き「それなら用瀬で作ればいけない」と立ち上がりました。

12人の用瀬町の赤十字奉仕団員は、夏場でもいたみにくいメニュー等工夫を凝らして50食のお弁当を作りました。両町は昔から地域活動での交流はあったものの、赤十字奉仕団として協力し合う活動は初めてでした。災害は今後も起こる可能性があるため、今回の出来事を後世に受け継ぎたいです。



真心を込めてお弁当を作る
用瀬町赤十字奉仕団員



地域のニーズに応えた様々な奉仕団活動

新潟県赤十字安全奉仕団

新潟県赤十字
安全奉仕団とは？

郡市単位の分団により構成され、各分団が地域の人道的ニーズに応えた活動に取り組んでいます。奉仕団員の知識と技術を活かした活動は、地域の健康と安全を守ることにつながっています。

新潟県赤十字安全奉仕団
上越市分団

✔ 赤十字フェア、ハートラちゃん講座を通じた講習普及



一般市民が気軽に参加♪

「分団の活動を広く紹介する場が欲しい」という分団員の意見から、市内の商業施設を借りて「救急法」「幼児安全法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「野外訓練」の5つのブースに分かれた「赤十字フェア」を行ってきました。本フェアでは、事前のチラシ配布や当日の着ぐるみを使用した宣伝により、一般市民が気軽に参加できるよう促しました。回を重ねるごとに来場者数は増加し、成功したときの喜びや達成感も大きいです。また、本フェアの経験を基に、これまで単発で開催していた5つの短期講習会をまとめて「ハートラちゃん講座（短期講習会）」として市内の施設で実施しています。

新潟県赤十字安全奉仕団
新潟市分団

✔ 支部新社屋での災害救護訓練

新型コロナによる行動制限が緩和され、ボランティアルームに厨房設備を完備した県支部新社屋も完成したことから、災害救護訓練を2年振りに実施しました。支部協力のもと青年奉仕団、無線奉仕団、日本防災士会新潟県支部の皆さんも含め30名の参加でした。新社屋と資材備品庫の見学、リフトテント設置などの救護所設営訓練、移動炊飯器とハイゼックスを使った炊き出し訓練を行い、昼食には豚汁、サラダ、漬物も準備しました。参加者からは「各種防災備品の取り扱いが学べて楽しかった」といった声も寄せられました。



皆で協力した救護所設営訓練



地域のニーズに応えた様々な奉仕団活動

新潟県赤十字安全奉仕団
柏崎市分団

✓ 地域のサポートセンターと連携した防災イベント

◎ 奉仕団活動の認知と防災意識の向上を目指す



地域サポートセンター共催!

30年以上続いている柏崎市赤十字奉仕団ですが、コロナ禍で団員が減少。仲間を増やす努力をしながら地域に根差した活動を行っています。現在は、NPO法人の地域活動サポートセンター柏崎とともに、救急法に関する防災イベントを実施。AEDを利用した心肺蘇生措置や熱中症の対処、傷の手当てなどの講習を行うほか、ペット防災講座なども別途開催しています。

防災イベントは、地域の皆さんの防災意識を高め予防的な視点の啓発になるとともに、多くの人に日赤の活動を知っていただける、大変意義あるものと感じています。

「できる」ことを増やせる講習を続けていきたい

防災の原点は、地域の人々の対応です。防災学習や訓練に加え、日頃から人と地域がつながり、隣近所の人の顔をイメージできるところ、共助できるのだと思います。

救急法等の講習は、まさに地域のニーズに応える地域に根差した活動です。今後も地域活動サポートセンター柏崎と一緒に地域に出向き「これなら私にもAEDができそう」「講習のおかげで救命処置ができ救急隊に引き継ぐことができた」などの声を聞けることを目標に続けていきたいと思っています。



柏崎市分団
藤巻委員長

新潟県赤十字安全奉仕団
村上市分団

✓ ボランティアのためのボランティア

令和4年8月3日からの大雨災害で、甚大な被害を受けた村上市及び関川村への支援活動を行いました。今回重要視されたのは被災者だけでなくボランティアへの健康管理、特に熱中症予防と熱中症初期の対応を具体的に伝えることでした。

ボランティア活動では被災者への支援に気を取られ、ボランティアへのサポートが見落とされがちです。真夏だったのでボランティアに対して出発前のオリエンテーションで注意喚起を行い、被災者の方にも被災地域を巡回した際に同様にを行いました。被災現場に出向く際は分団員の発案で冷たいタオルと飲み物を配ることで、幸いにも活動期間中に緊急の応急対応が必要な事案には遭遇せず活動を終了することができました。



ボランティアへのサポートも大事!

安全で健康な状態で活動するために!

災害時のボランティア活動では、ボランティアが安全で健康な状態で活動し、活動を自己完結することが大切です。冊子「ボランティア、ご安全に!」では、安全な活動のためにどのような予防策を講じるべきか、ボランティア活動前後の準備や注意点について学べます。日赤ホームページに掲載していますので、冊子データをぜひお役立てください!



二次元
コード

🔍 赤十字 ご安全に

多様な方々へのボランティア

～ニーズに合わせた誰一人取り残さない防災～

支援を行う際、まず必要なのはニーズを把握すること。その上で、支援の現場でより一層ボランティアが力を発揮するためには、ボランティアが持つ「役に立ちたい」という気持ちとニーズをつなぐことが重要です。この考えのもとで取り組んでいる、多様なニーズに合わせた平時の防災活動を3つ紹介します。

佐賀県

赤十字防災ボランティアの取り組み

大渡さん(赤十字防災ボランティア、今号RCV編集委員)

◎「赤十字防災ボランティア」とは

佐賀県支部では、赤十字ボランティア＝赤十字防災ボランティアを意識して、平時より職員と赤十字防災ボランティアリーダーを中心に、防災ボランティアセンターの立ち上げ訓練等を行ったり、様々な方々に対して防災セミナーを行ったりしています。

まず、対象がどのような方々か？何が災害時に困り

ごととして想定されるか？を考え、防災セミナーの内容を中心に赤十字が提供できるカリキュラムの中から準備します。また、少しでも多く内容が心に残るように、どのように話をして視覚的・聴覚的に伝えるかを考えセミナーの内容を組み立てます。

◎小さな安全隊長と「きけんはっけん」

昨年度、ある幼稚園より親子活動として、各学年に分かれて防災の講話とハイゼックスの炊き出しを行ってほしいとのお話があり、保育士である私も職員と一緒に活動を行いました。事前準備として、今まで大きな地震を経験したことのない2・3才児に向け、家の模型を作り「ぐらぐらゆれると…」という話ができるようにしました。また、講習の雰囲気緩和のためハートラちゃん人形を作りました。

当日、救護服を着ている私に緊張している様子だったので、子どもたちを“安全隊長”に任命し、敬礼ごっこをすると子どもたちが保護者から離れてどんどん側に来てくれました。その後、“安全隊長”を中心にハイゼックスでごはん作りをし、炊いている間に「きけんはっけん」の教材をハートラちゃん人形と一緒に取り組みました。子どもたちは、予想していた以上に危険箇所を探してハートラちゃんに報告してくれ、ハートラちゃんの“どうなっちゃう？”の声かけに、大人同様よく考え答えてくれました。



地震から身を守るんだ!

子どもだって大切な人を守りたい

実施前は、「まだわからないかな」「できなくてもあたり前」と思っていたのですが、開催してみて、子どもだって大切な人を守りたい気持ち大きいこと、そのために考えて行動できる芽があることを感じ、その芽を大切にしていきたいと思いました。

災害はいつ起こるかわかりません。災害時に少しでも困りごとが減らせるように、命を守るように事前に想像し、考え、行動することの大切さを伝えていきたいと思えます。



佐賀県赤十字
防災ボランティア
大渡さん

(水上安全法と幼児安全法の指導員)



多文化共生を目指した防災イベント

愛知県大府市赤十字奉仕団



◎ 災害時に役立つ温かい非常食づくり

大府市赤十字奉仕団は、防災スタンプラリーや炊き出しを中心とした講習会を市内の公民館などで行っています。数年前から力を入れているのが非常食づくりの紹介です。この非常食は、お米などの材料を耐熱性ポリ袋にまとめて入れ、お湯で煮るだけの簡単な方法で、災害が起こって電気やガスが止まっても、カセットコンロを使って在宅で温かい食事を作ることができます。

レシピを掲載したオリジナルのチラシを配布するほか、要望があれば実際に調理するのですが「まさに目から鱗」と大変好評です。まな板などを使わずポリ袋のまま食べられる環境にやさしいエコ料理ということもあり、多くの方から喜ばれています。また、講習会では、ローリングストックなど在宅避難に関する備えについても紹介しており、市民の防災意識の向上にも役立っています。

◎ 在日外国人向けの防災イベントを開催

今回、新たな試みとして行ったのが、在日外国人の方を招いた防災イベントです。大府市ではウクライナからの避難民を受け入れていることもあり、市内で外国人の方を見かける機会が増えました。大府市の婦人会が「多文化共生と国際協力」をテーマに掲げて活動していたこともあり、赤十字奉仕団の活動と連携して、地域の外国人の方と交流できないかということになったのです。

大府市の国際交流協会に相談したところ、日本語教室に通っている外国人の方々がいることを知り、日本語教育の一環として国際交流協会と協働し、防災にまつわるイベントを開催してはどうかという話になりました。地震をあまり経験したことがない方も多いと聞きましたので、防災について知っていただくよい機会だと思いました。



◎ やさしい日本語と身振り手振りで奮闘

外国人向けのイベントでは言葉が大きな壁になりますが、以前に盆踊りを通じて外国人の方と交流した経験もあったので、この防災イベントも何とかできるという気持ちでした。もちろん、国際交流協会の方から外国人に伝わりやすいやさしい日本語を教えてもらい、難しい言葉を使わないなどの工夫もしましたが、ボディラン

ゲージを駆使し、フレンドリーに接することで乗り切ることができました。今回は、参加者に五目ご飯の材料を耐熱性ポリ袋に入れてもらい、他の防災体験をする間に私たちが炊いておくという手順だったのですが、できあがったご飯を食べて、皆さん「こんなに簡単で、こんなにおいしいの?」と感動されていました。

地域の一員として仲良くなることを目標に

今後は、日本語教室に通われていない方や、そのご家族にも参加していただきたいと思っています。防災に関する知識を広めるのはもちろんですが、それだけでなく地域の一員として外国人の方と仲良くなって、会えば「あら元気?」と声をかけ合えるようになりたい、というのが私たちの目標です。赤十字奉仕団の活動はとて有意義で役に立つことが多いので、これからもより多くの人たちに私たちの活動を知っていただけるよう、このようなイベントを継続して行っていききたいと思います。



お話を伺った倉元委員長(右から2人目)と池田副委員長(一番右)



若者による若者への防災イベント

大阪府青年赤十字奉仕団 × 府内各学生赤十字奉仕団 × 高校生 防災ピア・エデュケーション

私たちは献血推進活動や防災活動、HIV/エイズ予防・啓発活動などに取り組み、若い世代の感性を活かした活動を積極的に行っています。今回は、大阪府青年赤十字奉仕団と府内の各学生赤十字奉仕団が合同で、主に青少年赤十字加盟校の高校生を対象に毎年行っている防災ピア・エデュケーションについて紹介します。

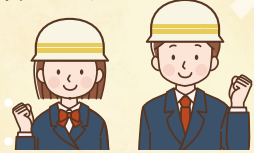
◎ 防災ピア・エデュケーションとは？

若い世代が防災について考え、同世代の仲間と意見交換し、災害時の適切な判断を実践的に学ぶことを目的としたイベントです。座学とゲーム形式を用いたプログラムを1日で楽しく学んでいきます。

大きな災害の経験がほとんどない若い世代にとっ

て、何が今一番必要か

考えた時、“防災について主体的に学べる活動”があれば防災意識の向上へつながらずにはないかと考えました。日頃の防災についての疑問や、考えを共有できる機会をつくりたいと思ったことがきっかけです。



◎ 防災×若者×多様性

今年度開催予定のテーマは“地震”、サブテーマに“地震後に想定される災害ってなんだろう”を掲げています。地震だけでなく、災害を幅広く捉えられるテーマとしました。内容は常識的知識から新事実まで、情報に新旧偏りが出ないように収集し、実践的な要素を取り入れたクイズやディスカッションも用意しています。

一番のメリットは視野が広がることです。高齢の方と住んでいる人、自身に障がいのある人、それぞれ異なる環境の人との様々な価値観と出会うことで、新たな目録での発見や変化が必ずあります。自身の視野を広げるとは、多様性の理解への第一歩だと思っています。



3年ぶりに対面で開催された令和4年度の様子。災害時にとるべき行動についての講義やグループワークを行った



楽しみながらイベントに取り組む高校生たち

活動への想いと 今後の展望

高校生たちの防災意識の向上に貢献したいと思っています。高校生だから行動できることは限られている？そんなことはありません。自分の安全を確保することも大切な防災の一つです。高校生にとって防災とは何かを考えるきっかけにしてほしいです。

私たち防災ピア・エデュケーション実行委員は“楽しく”防災が学べるプログラムを、心を込めて用意しています。防災について学び「こんな考えもあるのか！」を生み出すことが、この活動の目標です。

主催議長からひと言

もし地震が発生してしまった時、今の状況に応じた的確な判断ができますか？少し想像してみてください。どんな行動や配慮ができるでしょうか。ぜひあなたの考えを同世代と共有してみましょ。防災ピア・エデュケーションへの参加をお待ちしています！



近畿大学赤十字奉仕団
野々上さん



**RCV
Topics**

**令和5年度青少年赤十字
国際交流事業を開催しました。**



▶ 全国でたくさんのボランティアが活躍

令和5年11月17日から26日にかけて、青少年赤十字国際交流事業が行われました。

新型コロナウイルス感染症の影響により近年はオンライン開催だった本事業も、今年は5年ぶりに集合形式で開催され、海外からはアジアの9の国と地域から26名の青少年赤十字メンバーが参加しました。

海外メンバーは、各府県で語学奉仕団等のサポートを受けながら地元の高校生や地域奉仕団と交流。日本文化や赤十字活動を学んだ後、東京で開催された国際交流集會に、日本各地から集まった39名の青少年赤十字高校生メンバーとともに参加しました。



毎回の国際交流集會は全国各地の青少年赤十字指導者、語学奉仕団、ユースボランティアが職員とともに企画・運営を行っています。

今回もボランティアが発案した様々なアイデアが盛り込まれたプログラムが行われたほか、本集會初となる三井グループが提供する「サス学」も行われました。

たくさんのボランティアに見守られながら、参加したメンバーは寝食をともにし、文化や価値観の違いを越えて議論を交わす経験から様々な学びを得て、ひと回りもふた回りも成長し、地元に戻っていきました。

本事業は2年に1回の開催としています。次回開催でも多くの赤十字ボランティアに参加いただけることをお待ちしております。

本事業は2年に1回の開催としています。次回開催でも多くの赤十字ボランティアに参加いただけることをお待ちしております。

読者のみなさんの声

大募集!

RCVをよりよい情報誌にするために、皆さまのご意見をぜひお聞かせください!

- 1 今号の特集へのご意見・ご感想
- 2 こんな特集が見たい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな?」等、知りたい活動はありませんか?
- 3 活動を全国に伝えたい!
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- 4 RCVをメール配信しています! 配信をご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①~④をご記入のうえ、メールにて rc-volunteer@jrc.or.jp までお送りください。



二次元コードからもご回答いただけます

PRESENT

抽選で10名様に

**ハートラちゃん
クリアファイル**
をプレゼント!!



令和6年3月29日(金)必着

〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課宛



RCV バックナンバー

はこちらから →



<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/volunteer/document/>

全国の様々なボランティア活動満載!!
活動のヒントを探しませんか?

🔍 赤十字RCV

Editor's Note

編集後記

私たちは、防災に関する「多様な方々によるボランティア」について取り上げました。実際にボランティアの方に活動内容や活動への想い、感想などを聞くことで、様々な形と方法があることを学びました。いつどこで起こるか分からない災害だからこそ、普段からのつながりが大事だと気づくことができ、とても実りのある経験になりました。(特集1担当:岩脇、椎名、馬場、並河、三枝、松本、鷺池)

災害時に起こる困難なことが人それぞれ違うことを改めて感じ、多様な視点や文化に触れることで視野が広がりました。記事の企画から携わることで、情報誌の制作のプロセスを学ぶことができました。異なるバックグラウンドを持つ方々と共に活動することができ、貴重な経験になりました。離れていても出会いがあり、一緒に活動が出来てよかったです。(特集2担当:大渡、塚田、友寄、松浦、山形、数藤)